

OPINION

「ナビゲーター」

今回は、短信を2本紹介する。まず、昨年5月ウクライナから寄稿したオルガから。日本からの近況確認に対し、「ご心配いただき、とてもうれしく温かい気持ちになります。覚えていてくれて、本当にありがたい。私たちウクライナ人は、ロシアとの紛争当事者ではなく、ただ戦場になるかもしれない場所で暮らしているだけです。国民はこの状況の平和的解決を依然願っています…。しかし、私の家はロシアとの国境から40キロしか離れていません。人間の平和的に解決したいとする意識に期待します。

そして今年か来年、素晴らしい国、日本を訪問できることを願っています。どうもありがとうございます。」

ウクライナとスリランカからの短信

37

リポート コロナ禍に立ち向かう 世界のいま ~日本への提言~

(編集・翻訳 リーム中産連)

足元の状況とこの先

た。「(2月11日付) 昨年の記事は、ロシアとの「政治的」な紛争はあるものの、アジア・欧州・中東を結ぶ立地と安価なハイテク専門集団など人的資源から、コ

道より小さく九州より大きい面積の夜間外出禁止令が出されました。国である。貿易の中継地として発展、ワクチン接種が開始されてから紅茶などの農産品の産出国で経済的には中程度に発展した、緑に恵まれた。美しい国である。

「とても久しぶりの連絡になりました。欧州・中東を結ぶ立地と安価なハイテク専門集団など人的資源から、コ

非常にむずかしいと思います。正常化するのには、1年くらい先のことではないかと思えます。

ネガティブな内容で申し訳ないのですが、これが真実ではないでしょう。生活費は急騰して、多くの人が職を失っています。もちろん、政府も全力で問題解決に取り組んでいるのですが、時間がかかりそうです。

ロナ後の発展の可能性を伝える内容であった。逆に昨今の緊急事態は、その地政学的な微妙さから起きています。コロナ禍とこの政治問題、いずれも人類の危機を増長させるものでしかない。

もう一本はスリランカから(2021年12月18日付)。同国は、北海

イルスが検出されたことで、また新たな感染拡大が懸念され、わが国の状況を悪化させることにならないかと心配しています。人口の70%以上は2回のワクチン接種を受けており、現在3回目の接種(「ブースター」接種)が進んでいます。現時点で、わが国の将来を予測することは

年末の休暇時期で、国内は上のようなきびしい現状でもあり、日数の関係から前向きなお伝えできないのですが、わが国の状況とご理解ください」

【JASTECA(日本スリランカ技術文化協会) 副理事長 ダヤンリ・ワーナクラソリヤ】

が、スリランカで発生したコロナウィルスによる影響は非常に深刻で、国内の多数の地域で数週間から何カ月も

(月曜日に掲載)